

# The Learner

Doshisha International Academy, Elementary School

February  
ISSUE



February, 2021

Volume 110

## Message from the Vice Head of Schools

### 【光の春と寒梅の花】

2月に入ると、立春を迎え、春の訪れを告げるニュースが耳に入ってくるのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のニュースが優先されています。緊急事態宣言の延長の議論もやむ無しといった感の今日この頃です。

さて、今日から2月に入りますが、この2月を「光の春」と呼ぶことがあります。外は底冷えして気温は上がりず風はまだ冷たいのですが、太陽の光だけは（冬至の頃に比べると）どんどん勢いを回復してきています。昼の時間は、12月下旬より1時間ほど長くなってきており、今日（2月1日）の日の入りは午後5時25分です。日中、部屋の中から外を眺めると、春の光の強さに驚くことがあります。2月が「光の春」と呼ばれるようになったのには、先人たちのこうした自然との出会いがあったのでしょう。

また、2月は同志社にとっても心に留まる月になります。それは新島襄生誕の月だからです。新島の誕生は、1843年2月12日。世はまだ江戸の時代でした。同志社創立後、新島の教育観を表した言葉に「人ひとりは大切なり」がありますが、新島がこよなく愛したのは、他者への思いやりの心に充たされ、常に弱者に寄り添う人物でした。新島生誕の日を覚えるにあたり、これこそが新島が目指す同志社人の育成であったということをもう一度心に留めておきたいと思えます。

この新島の生誕の時期と彼が寒梅を好んだこととの関係は定かではありませんが、奇しくも新島生誕の2月中旬から梅の開花の知らせが届き始めます。その新島は、寒梅について2つの有名な詩文を残しましたが、今回、その一つを紹介します。

「真理は寒梅の似し、敢えて風雪を侵して開く」

今出川キャンパスに建つ「寒梅館」の名の元となり、同志社礼拝堂前の碑に刻まれているこの言葉は、同志社を卒業し、後に日銀総裁となった教え子に贈られた色紙に由来するようですが、この句は、真理を追究することの厳しさを風雪の中に咲く寒梅に例えて詠んでいます。（コロナ禍にある我々に寒さ厳しい風雪の中に咲く寒梅のようであれと語ってくれているようにも思えます）

### 【PYP Exhibition 2021】



本校が国際バカロレア機構（IB）より、PYP認定校として正式に通知をいただいたのが、2019年の1月でした。この2月に入り、認定からちょうど2年が経過したことになります。IBの教育プログラムには、特徴的な取り組みがいくつもありますが、根底に流れているのは、これからの地球市民として「より良い平和な世界を築くために貢献できる人材育成」であり、「全人教育」です。そして、それを実現する為のプログラムとして、教科横断的な学びや児童が主体となる学びが重視されています。

特に、これまで子どもたちが探究型学習で培った様々な力を卒業研究発表会として全校規模で開催する PYP Exhibition は、学びの成果を発表する場のみならず、アクションに繋げる場として IB 校では大きな意味を持つ取り組みとして位置づけられています。今年も1月の28日（木）と29日（金）に開催されました。Exhibition をやり遂げた6年生を称えらると共に、保護者の皆さん、メンターの皆さん、そして様々なかかわりを持っていただいた多くの方々に感謝いたします。この発表会には、本来は1年生から5年生までの在校生も参加し、6年生のいろいろな分野に及ぶ研究に熱心に耳を傾けるのですが、残念ながら今回は5年生児童と6年生保護者の参観と、オンラインでの一部児童の研究発表公開のみになりました。様々な苦難に直面した Exhibition となりましたが、今後もそれを乗り越え、学習者、教員、地域社会、そして保護者の方々も含めた皆が手を取り合い、IB認定校としての本校の学びが高まっていくよう取り組んでいきたいと思えます。

副校長 城 恵市



同志社国際学院初等部  
〒619-0225 木津川市木津川台 7-31-1

Doshisha International Academy Elementary School  
7-31-1 Kizugawadai, Kizugawa City 619-0225

<http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

## キリスト教教育

### 2月：愛 February：Love

「天におられる私の父の御心を行う人は誰でも、私の兄弟、姉妹、また母なのだ。」

(聖書協会共同訳 マタイによる福音書 12章 50節)

同志社を創設した新島襄は幕末期、武士の家に生まれました。4人の姉の後で待望の長男として生まれ、数々の勉強をしました。書道、日本画、馬術、剣術などです。また幼い頃から礼儀作法の塾に通い、偉いお殿様からも可愛がられていました。少し大きくなってから漢文を学び出すと、すぐに優秀な成績を収めるようになりました。

新島は日本の礼儀を十分にわきまえ、お殿様への忠心や育ててくれた家族への恩義がいかに大切であるかを、知り尽くしているはずの人でした。それなのに、自分の家やお殿様には内緒でこっそりと外国へ渡る決心をした、というのは、よくよくのことです。でも、それには深い訳がありました。

ある時、新島は漢文の聖書を読んでいて、衝撃的な発見をしたのです。聖書の中には「天父」という言葉がありました。「天の父なる神様」という意味です。—私たち人間には、自分の身体を直接生み出してくれた父親がいる。ところが、その父親の子供である遥か以前から、人間はこの「天父」の子供であったのだ。だから自分はこの「天父」が望んでおられる人生を、歩いてゆかねばならないのである—そう、考えるようになったのです。

新島が生きていた当時の日本には、長男に生まれた子はその家の後継ぎとなって子孫を残し、後の代までずっとその家が絶えないようにする義務がありました。ところが新島は自分が継ぐべきだった家をいったん捨て、家族の誰も知らない世界へ飛び込んで、そこで十年もの長きに渡り「天父」の導きだと思える生き方を貫き通しました。この十年の間に鎖国が解かれ、廃藩置県も行われたので、もう自分の藩のお殿様に仕える仕事は、無くなっていました。でも少なくとも新島家の長男としては結婚して子供を作り、今後も子孫が続くようにして欲しい、というのが彼の両親の願いだったのではないかと思います。けれども、新島と夫人の八重さんとの間に、子供はありませんでした。

このように見ていくと新島は一見、世間の人々が考える幸せを何もかも捨ててしまった人のように思えます。自分が継ぐべき家を捨て、一度は親兄弟も捨て、子孫を残さず…でも、本当にそうでしょうか。

アメリカで暮らしていた十年の間に、新島には家族のような深い絆で結ばれた人々が何人もできました。自分の本当の息子のように高校や大学に通わせてくれたハーディー夫妻。病気の時、親身になって看病してくれた家主のメアリー・ヒドゥン。大学の恩師であるシーリー教授と、その夫人。もし新島が思い切ってアメリカに渡っていなければ、これら素晴らしい人々との出会いはありません。

十年後、やっと日本に帰って来られた新島は、京都に両親を呼び寄せて、再び一緒に暮らせるようになりました。そしてアメリカで家族となった人々とも時々手紙を送り合って、家族のように親しい関係を続けました。

また同志社という学校を創ってからは数え切れないほど多くの生徒たちを育て上げ、新島夫妻は彼らの父・母のような存在となりました。

新島の地上の生涯は46歳11ヵ月であり、決して長いとは言えません。しかし新島の姿が見えなくなった今でも、彼の子供たちは毎年増え続けています。それはつまり、数ある学校の中からこの同志社を選んで入学して来られた生徒さん達全てのことです。「同志社」という学校が続く限り、これからも新島夫妻は彼らの「父と母」であり続けることでしょう。

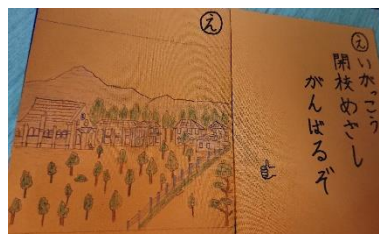
Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

\*この原稿は、1月25日(月)・26日(火)の朝礼拜で行った「創立者永眠の日」に因む奨励内容に加筆・修正したものです。

<お知らせ>

2月の「おにぎり献金」は、9日(火)です。感染症対策のため、献金を小袋に入れてお子様にお持たせくださいますよう、お願い申し上げます。

(6年生児童の作品「新島かるた」)



## 新型コロナウイルス感染拡大防止に関わる対応について

### 緊急事態宣言延長に備えて

近畿3府県に緊急事態宣言が出されて、間もなく1か月になります。このところようやく実行再生産数が1を下回り、感染拡大も鈍化傾向になりつつありますが、まだまだ、高い数値での高止まり感がぬぐえません。ビッグデータを基にした各地の人の動きは、前回の緊急事態宣言の際より高い数字が出ているだけでなく、1週間前との比較でも場所によっては100%を超えており、人々の心に慣れや緩みが生じていることが気になります。コロナウイルスは私たちのすぐ近くまで忍び寄ってきており、いつだれが感染する分らないところまでできています。決して油断することなく、不要不急の外出の自粛や感染対策を進めていただきますようお願いいたします。なお、ご家庭の方が陽性あるいは濃厚接触者となった場合は、早急に学校までお知らせください。また、ご家族が（職場や学校・園、習い事などで感染者が出て）濃厚接触者の可能性がある場合は、その結果が出るまで児童も登校を控えていただくようお願いいたします。

**冬**のコロナ対策へのご協力をお願いします！

「マスクの着用」「3密の回避」「手洗い・消毒」などの基本的な感染症対策を徹底しましょう。

**「静かなマスク会食」をお願いします**

会話の際にはマスクを着用しましょう！



いつでもマスクを着けたい「3密の回避」

QRコード

QRコード

QRコード

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議  
「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」（2020年5月4日）から抜粋

**「新しい生活様式」の実践例**

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

① 人と人の間隔は、出来るだけ2m、最低1.5mを確保。② 手洗い

③ 咳やくしゃみは、出来るだけマスクを着用し、咳やくしゃみは、必ず肘の内側または、上腕の内側で覆う。④ 咳やくしゃみ後、マスクは必ず取り替える。⑤ 咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。⑥ 咳やくしゃみ後、マスクは必ず取り替える。⑦ 咳やくしゃみ後、マスクは必ず取り替える。⑧ 咳やくしゃみ後、マスクは必ず取り替える。

(2) 日常生活における基本的な生活様式

① 公共交通機関の利用は、出来るだけ避け、必要の際はマスクを着用し、人と人の間隔を確保する。② 公共交通機関の利用は、出来るだけ避け、必要の際はマスクを着用し、人と人の間隔を確保する。③ 公共交通機関の利用は、出来るだけ避け、必要の際はマスクを着用し、人と人の間隔を確保する。

(3) 日常生活における感染防止の生活様式

① 飲食店利用：人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。② 飲食店利用：人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。③ 飲食店利用：人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。

(4) 働き方の新しいスタイル

① テレワークやローテーション勤務、勤務時間短縮などにより、人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。② テレワークやローテーション勤務、勤務時間短縮などにより、人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。③ テレワークやローテーション勤務、勤務時間短縮などにより、人と人の間隔を確保し、マスクを着用し、咳やくしゃみ後、手は必ず石鹸で洗う。

## 2月の主な行事・予定

1	月	Unit6 (w2)
2	火	学校評価アンケート（～10日）
3	水	
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	Unit6 (w3)
9	火	
10	水	
11	木	建国記念の日
12	金	
13	土	編転入試
14	日	
15	月	Unit6 (w4)
16	火	
17	水	
18	木	G3-1, G6 参観授業
19	金	G1-2, G3-2 参観授業 タレントショー（動画視聴）
20	土	
21	日	
22	月	G1-1, G2 参観授業 Unit6 (w5)
23	火	天皇誕生日
24	水	G4 参観授業
25	木	G5 参観授業
26	金	
27	土	
28	日	

（詳しくは、厚生労働省、文部科学省のHPを参照ください）

### 【学校評価ご協力お願いします】

2月1日付けで、学校評価アンケートのお願いをHPにアップしております。アンケートはオンラインで行います。HPにアップした文書に、URLやQRコードを掲載しておりますので、そこからアンケートサイトにお入りいただきご回答ください。なお、自由記述の欄は、任意でのご記入となります。

### 【2月の主な行事予定について】

\* 土曜参観は、実施方法を再考し、秋学期に行った時と同じ形態で実施いたします。各クラス、学年により日程が決まっておりますので、ご確認願います。

但し緊急事態宣言が延長された場合は、Zoomでの学期報告会のみとなり、参観は取り止めといたします。

\* 学校評価のアンケートにつきましては、10日までに回答いただきますようお願いいたします。

\* 今後の情勢により予定が変更する場合があります。